

全身麻酔を受ける患者様への デキサメタゾン注射薬の適応外使用について

当院で全身麻酔を受ける患者様のうち、術後に吐き気や嘔吐を起こす可能性が高いと考えられる方に、デキサメタゾン注（デカドロン注）という注射薬を用いて、その予防を行うことがあります。

【術後の悪心嘔吐について】

全身麻酔後には吐き気や嘔吐が起こることがあります。特に女性やたばこを吸わない方、乗り物酔いしやすい方、過去の麻酔で気持ちが悪くなった経験がある方ではリスクが高くなります。手術後悪心嘔吐については手術からの回復を遅らせる大きな要因ともなり、積極的な予防や発生時の早期対応が推奨されます。

【デキサメタゾン注について】

デキサメタゾン注射薬は、添付文書上、術後の悪心嘔吐には効果・効能が認められておりません。しかし、抗がん剤治療で発生する悪心嘔吐に対しての適応はあり、安全性と予防効果が高いことから、術後悪心嘔吐の予防と治療に関する国際的なガイドラインでは、上記のような、術後悪心嘔吐を起こす可能性が高い患者様には予防的に使用することを推奨しており、日本麻酔科学会もこのガイドラインを承認しております。

デキサメタゾン注射薬の副作用としては、一時的に血糖値を上げることがありますが、最近の研究では術後感染のリスクを上げないことが証明されております。麻酔中1度の使用となり、周術期に関連する合併症の危険性はないと考えられます。

【治療費について】

この治療にかかる費用は通常の保険診療と同様となります。副作用が生じた場合も保険診療となります。しかし、適応外使用であることから、国の医薬品副作用被害救済制度の対象にはならない可能性がありますのでご了承ください。

手術や全身麻酔を予定しており、当院でこの薬剤を使用する可能性がある方について、ご質問等がありましたら、いつでも遠慮なく、担当医師や麻酔科医、看護師または薬剤師にお尋ねください。